

中国の地方政府間競争はグリーン成長を妨げるか？*

澤田 英司[†] 徐 一睿[‡]

[†] CREST 研究員・早稲田大学理工学研究所

[‡] 嘉悦大学経営経済学部

要旨: 中国では、経済成長への強いインセンティブを末端にまで浸透させる方法として、地方の人事権を中央政府が有し、成果に応じて上位政府へ選抜する「政治選抜トーナメント」方式がとられてきた。この方式による地方統制は経済成長に一定の成果を挙げている一方、中国のグリーン成長への転換に対応できるかという点で議論が残るものである。本研究は、上記の点について、勝ち抜きトーナメントモデルによる経済理論アプローチから検証を試みた。政治選抜の基準として、環境水準へのウェイトを高めることは環境改善を進めるが、あまりに大きなウェイトのもとでは一切の環境改善が放棄される場合があることが明らかとなった。そのような場合、財政権の行使や、一票否決の導入という補助的な統制によって、環境改善の放棄を回避させる必要がある。

JEL: H11; H7; P37.

キーワード: 勝ち抜きトーナメント；人事権；財政権；一票否決；中国のグリーン成長。

*本研究は、環境省の平成 25 年度公的資金「環境研究総合推進費補助金 (3K123002) により実施された。環境経済政策学会 2013 年大会において、討論者の広島修道大学の小川健氏から大変有益なコメントを頂戴した。また、慶應義塾大学の細田衛士教授と佐藤一光助教からも貴重なコメントを頂戴した。ここに感謝の意を記したい。なお言うまでもなく本稿に残る誤りは全て著者に帰するものである。